【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【公表番号】特表2006-520750(P2006-520750A)
【公表日】平成18年9月14日(2006.9.14)
【年通号数】公開・登録公報2006-036
【出願番号】特願2006-500036(P2006-500036)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｋ　9/113　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　47/14　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　47/10　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　47/44　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　47/42　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　31/355　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　9/113
Ａ６１Ｋ　47/14
Ａ６１Ｋ　47/10
Ａ６１Ｋ　47/44
Ａ６１Ｋ　47/42
Ａ６１Ｋ　31/355

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年11月11日(2009.11.11)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
固体の活性化合物媒体粒子が存在する水性の媒体分散を作製するための方法であって、前記活性化合物媒体粒子は、ワックス、重合体または脂質を基材とし、１０から１０００ｎｍの範囲の直径中央値を有し、かつ少なくとも１つの活性の医薬品、化粧品および／または食品技術化合物、香料またはフレーバを含み、前記方法は、
ａ）活性化合物を、ワックス、重合体または脂質を基材とする活性化合物媒体、および、ステップｂ）においてリオトロピック液晶混合相の形成をもたらす少なくとも１つの乳化剤と、活性化合物媒体の融点または軟化点よりも上の温度で混合して相Ｂを形成するステップと、
ｂ）相Ｂと、乳化剤を含み得る水性相Ａとを、活性化合物媒体の融点または軟化点よりも上の温度で、相Ｂ対相Ａの重量比は１：５から５：１で、高圧下均質化なしに機械的に混合して、ゲル状のリオトロピック液晶混合相を形成するステップと、
ｃ）混合相を、乳化剤を含み得る水性相で、活性化合物媒体の融点または軟化点未満である水性相の温度で、撹拌しながら高圧下均質化なしに、分散の所望の最終的な濃度にまで希釈するステップとを含む、方法。
【請求項２】
ステップｂ）における機械的混合およびステップｃ）における撹拌は、１から２０ｍ／ｓの範囲における周速度を有する撹拌機で行なわれることを特徴とする、請求項１に記載の方法。

【請求項３】
撹拌機の剪断作用は、家庭用台所用ミキサの剪断作用に対応することを特徴とする、請求項２に記載の方法。
【請求項４】
ステップｂ）における相Ｂ対相Ａの重量比は、１：２から２：１であることを特徴とする、請求項１から３のいずれかに記載の方法。
【請求項５】
活性化合物媒体粒子は、ジグリセリド、トリグリセリド、脂肪アルコール、それらのエステルまたはエーテル、ワックス、脂質ペプチドまたはそれらの混合物を基材とすることを特徴とする、請求項１から４のいずれかに記載の方法。
【請求項６】
活性化合物媒体粒子の直径中央値は５０から１０００ｎｍであることを特徴とする、請求項１から５のいずれかに記載の方法。
【請求項７】
請求項１から請求項６のいずれかに記載の方法によって得られる水性活性化合物媒体分散。
【請求項８】
さらなるポリオール相または油相で、請求項１から請求項６のいずれかに記載の方法によって調製された分散液を混合することにより多相分散を作製するための方法。
【請求項９】
請求項８に記載の方法により得られる多相分散。
【請求項１０】
請求項７に記載の分散液または請求項９に記載の多相分散を含む、薬剤、化粧品または食品添加剤。
【請求項１１】
膜構造固体ナノ粒子であって、１０から１００００ｎｍの範囲の直径中央値を有し、２５℃で固体であり、活性化合物媒体粒子と乳化剤との組合せを有し、それにより乳化剤がナノ粒子の内部および表面に存在するようにナノ粒子の全体に浸透する膜を形成し、請求項１から６のいずれかに記載の方法によって作製される、膜構造固体ナノ粒子。
【請求項１２】
ナノ粒子の断面をわたって膜構造が存在しない領域はないことを特徴とする、請求項１１に記載のナノ粒子。
【請求項１３】
膜は、水の存在下で自己乳化するリオトロピック液晶混合相で形成されることを特徴とする、請求項１１または１２に記載のナノ粒子。
【請求項１４】
負荷されるナノ粒子に対して６０重量％までの量で、活性医薬品、化粧品および／または食品技術化合物の少なくとも１つが充填されることを特徴とする、請求項１１から１３のいずれかに記載のナノ粒子。
【請求項１５】
日焼け防止剤が充填されることを特徴とする、請求項１４に記載のナノ粒子。